



高島

公益社団法人
びわ湖高島観光協会

アウトドアを高島でのブランド化により、観光振興 山と里と湖のこの場所で、気持ちよく過ごしてもらおう

「山ガール」や「女子キャンプ」が流行し、ファッション誌が特集を組むなど、アウトドアが新たな形で盛り上がりつつある。そんなトレンドを捉えるかのように、滋賀県高島市では、アウトドアに焦点を絞って、地域のイメージを高めようという動きが起きている。びわ湖高島観光協会は、その中心となって奔走する。

アウトドア推進協議会を核に 着地型の発想で、観光商品開発

「アウトドアを高島で」をキャッチフレーズに、高島市は地域の新たなイメージを確立し、観光客を拡大しようとして、力を入れている。2012年には市内のキャンプ場やアウトドア関連の事業者が参加して「たかしまアウトドア推進協議会」が発足。この協議会の事務局が置かれているのが、公益社団法人びわ湖高島観光協会だ。

びわ湖高島観光協会は、旧高島郡のマキノ、今津、新旭、安曇川、高島の5町と朽木村が合併し高島市となったのを受け、合併から2年後の07年に、それまで

各町村にあった観光協会を統合する形で設立された。

同協会は、各種催事の企画立案、地元

Blue Green Outdoor style in Biwako Takashima



山と里と湖、自然の豊かさを生かした地域のブランド化を推進

製品の展示販売所「たかしま・まるごと百貨店」、オンラインショップ「高島銘品館」の運営、ホームページやパンフレットなどを通じて情報発信、旅行代理店、企業・団体、教育機関への営業、観光案内所の運営などの事業を手掛けている。なかでも、県内の観光協会が最初に旅行業の認可を取得し、「びわ湖高島体験交流ツアー」たびこの独自の旅行商品を次々に開

発。着地型の発想で企画・販売・運営を行っているのが、同協会の持ち味だ。

県内有数の豊かな自然生かし アウトドアの聖地を目指す

「高島の観光」の多角化を進める同協会は、15年度の事業計画の最重要課題に「アウトドア」を位置つけた。

「協会として、これまでは市内の観光

情報をまんべんなく発信してきた。しかし、それだけでは十分な成果を得られなかった。高島の最大の魅力は何かを考えた中から、アウトドアで地域のブランド化を進め、その波及効果を他の分野へも広げていく方向になった。キャンペーンテーマは「Blue Green Outdoor style in Biwako Takashima」。「Blue」は琵琶湖や川の水や空を、「Green」は山や森の自然を表している。高島は自然の豊かさでは県内でもトップクラス。近畿、西日本におけるアウトドアの聖地と認知されるレベルまでブランド化できれば」と、坂井田智宏チーフコーディネーターは夢を膨らませる。

四季を通じ、遊びと癒やしで、 愛好者を惹きつける多彩な魅力

高島市は確かに、アウトドア愛好者を惹きつける魅力にあふれている。山と里と湖の自然に恵まれ、整備されたキャンプ場、水泳場、スキー場には関西一円から多くの利用者が訪れる。海津大崎の桜、マキノのメタセコイア並木など絵になる景勝地も多い。カヤック、ウインドサーフィン、サーフボードの上立ったまま乗りオールの使った漕ぎスタンドアップパドルボード(SUP)、スノーシューなど、四季を通じてアウトドアのスポーツとレジャーを堪能できる。

近年注目されているのが、マキノから朽木に至る80kmに及ぶ「中央分水嶺・高島トレイル」。このトレイルは中央分水嶺の中央部にあたり、随所で若狭湾と琵琶湖を望みながら歩くことができる。トレイルランニングも人気で、14年から「FAIRY TRAIL びわ湖高島トレイルランニングinくつき」と題した大会が11月に開催されるようになった。

また、特定非営利活動法人森林セラピーンサエティからセラピーロードと認定されたコースがマキノ、今津、朽木にあり、健康づくりや癒やしの空間として森林浴を楽しむ人も多い。

こうした豊富な自然素材を、今後、どのように発信していくかが、観光協会の大きな課題だ。

今秋、アウトドアフェスを開催 認知度向上を仕掛ける

「遊びや体験などのアウトドア・アクティビティをたくさん揃えることばかりを追いかけては、北海道や長野などの先進地に対抗できない。それよりも、高島の自然の中で『気持ちよく過ごす』アウトドアを訴求していきたい」と坂井田さん。

16年秋には、市内で2日間の大規模なアウトドアイベント「Blue Green FES」の開催を計画している。15年11月、たか



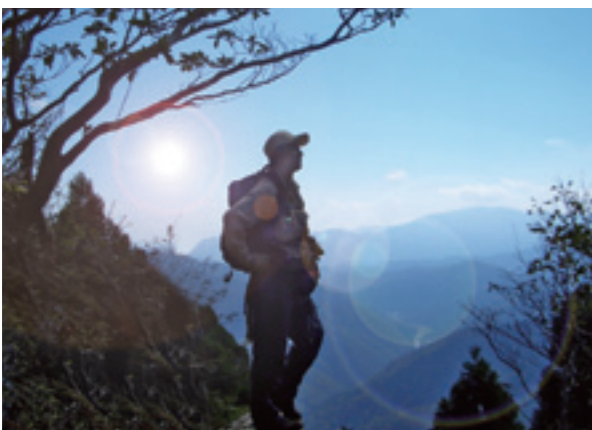
15年11月に開催された「第1回 びわ湖ウォータートレイルSUP駅伝レース」

しまアウトドア推進協議会の主催で「第1回 びわ湖ウォータートレイルSUP駅伝レース」が開催され、その販促物には「Blue Green」のロゴが初めてプリントされた。観光協会では今後もさまざまなアウトドアイベントに協力し、「Blue Green」の浸透と秋のフェスに向けた期待感を高めていく計画だ。

「地域をどのように売り出していくかが、私たちの役目。高島にはさまざまな観光資源がある。歴史文化財や発酵食品など一見つながらないことも、観光協会が間に入ることでアウトドアの切り口からつながりをつくることができるかもしれない。地域の人と一緒になって、高島エリアの活性化にしっかりとつなげていきたい」と仁賀久宣事務局長は力を込めた。



「びわ湖高島体験交流ツアー「たびのこ」」のプログラムの一つ「鯖ずしづくり体験」



80kmにも及ぶ「中央分水嶺・高島トレイル」